B.4.0.0.1(3-2)

組織として世界連邦憲章草案を審議するパートリッジ、ヴィヒ、ヴェルヴェル、ボーストン、ボーガン、ボーガン、ボーガ

B.4.0.0.1(第一部)

つつあるという印象を與えないようにかねと思はれてゐる。（注2）

会議は八月二十六日午前の公開会議と八月二日の秘密会議とに分れて

会議部長会議と内閣部長会議の開催する公式コミュニケとを代表の選ぶものの名は分らない。

特記事項は太平洋の安定化

「太平洋対日講和会議の早期

「対日講和の基本原則

「領土問題

「日本の軍備強化と再軍備化

「賠償問題

「経済及び貿易問題

「漁業

「領海問題のために設けられるべき機関

「適用の法律的形式

会議の経過

八月二十六日（第一日）

午前は公開会議であつた。オーストラリア首相チフリーが正式に会議の開会を宣言し、続いて議長の選挙に入り全員一致を以てオーストラリアの外相エヴアットが議長に推された。議長席についたエヴアットは、挨拶を述べ（注3）続いて各国代表が立ちそれぞれ挨拶を述べた。

（注4）

かくして午後から秘密会に入つたがこの日は対日講和の手續が主として論じられた様であつて、公式コミュニケその他を綜合すれば討議内容は次の如くである。

一、最終的講和会議の開催を促進し太平洋の安定を出來るだけ早く確保する為に努力をすべきことに意見が一致した

一、対日講和には拒否權を適用せず未國の提案した三分の二

B.4.0.0.1(6)

B.4.0.0.1(3-5)

ある。又同総代表は「日本の民主化は日本人に新憲法の生活条件を与え十数年間の時間の経過を待つ場合に初めて可能である」と述べたと伝えられる。

この日の会議で各代表は憲法に関する英連邦諸国の態度のみに拘泥し、日本国民の意向には触れない様に決定したと伝えられる。

コベートンは平和工作に於ける日本人の心理を過分評価してはならない、日本人の敗戦は敗れ敗なりきいと警告した。

八月二十八日（第三日）

日本の非武装化、非軍事化及び民主化強化がこの日の主題であって左の諸点が討議された模様である。

一、日本は完全に非武装化され非軍事化されねばならない。オーストラリア及日本の非武装化を無効に帰する事を主張し

一般的に支持された と言われる。

二、一切の兵器製造を禁止する。

三、国内の治安維持警察を強化する事を要求する。

四、軍事的を目的とする産業を禁止する

五、しかる後に原子力の研究、原子力の使用の開発を禁止することとし、これを保障する方策が討議に提出された。

六、既に編成委員会で一切の軍備の撤廃が禁止されているか、軍事的目的に移転し得るような産業施設をも含めてあらゆる種類の海軍機動部隊を完全に禁止し、更に海運通信にも制限を